海外レポート	中国　大連

「広州交易会のオンライン開催で、新たな展示会モデルとなるか」

趙　万利

中国商務部は、4 月に予定していた「第 127 回広州交易会（正式名称：中国輸出入商品交易会、商務部・広東省政府主催）」を 6 月 15～24 日にオンラインで開催することを発表しました。これには大連市の企業はもちろん中国国内の多くの企業が関心を寄せており、今後の新たな展示会モデルになる可能性があるとして中国メディアが報道しています。

元々、広州交易会は毎年春（4 月）と秋（10 月）の 2 回開催され、25,000 社以上の出展者と約 20 万人のバイヤーが参加する中国最大規模の展示会ですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け延期になっていました。

【広州交易会公式サイト】

中国では今年 1 月から新型コロナウイルス感染拡大が始まり、2 月 6 日には国内での大規模イベントの自粛を指示する「全国の業界団体に向けた新型コロナウイルスの感染防止・抑止対策に関する指導意見」が発表されました。このなかで、新型コロナウイルスの感染が終息するまで、展示会や講演会、フォーラム、研修などのイベントは原則中止するよう明示されたため、各地で展示会や講演会などを延期・中止する動きが相次ぎました。そして、中国メディアは、2 月末時点で 282 件の展示会が延期となり、7 件が中止されたと伝えています。

このような中、広州交易会が 63 年の歴史で初のオンライン開催を決定しました。さらに出展費用を徴収しない方針を明らかにしており、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けている各国の貿易企業が困難に直面している現状を考慮したとしています。このほか、期間中の活動に参加する越境 EC プラットフォームの開設を進めており、各出展企業にはライブ用チャネルが割り当てられ、24 時間リアルタイムの商談とプロモーションが可能になるとのことです。また、オンラインによって物理的なスペースの制限がなくなり、より多くの商品を売り込むことができます。そのため企業には商品の 3D モデリング、精度の高い画像の用意が求められます。

中国商務部は 4 月 23 日の定例記者会見において「オンライン開催への準備は順調に進んでおり、すでに 40 万人以上の海外バイヤーを招待した。当初からブースでの出展を決めていた約 2.9 万社の企業・出展者は、既存の出展者管理システムのアカウントを使って、プラットフォームに登録が可能である」と発表しました。参加する国内外のバイヤーについては「広交会公式サイトを通じて、オンライン展示プラットフォームから参加の申請ができる。今後、同公式サイトで具体的な登録方法を公開する。」とのことです。

展示会のオンライン開催は、広州市や広州交易会に限ったプロジェクトではありません。北京市でも同市商務局が中心となり「北京オンライン展覧会発展連盟」を発足したと発表しており、「中国国際健康産業博覧会」や「北京国際環市政設施及び清洗設備展覧会」などのオンライン開催が決定しています。今後、他都市でも同様に展示会のオンライン開催のプロジェクトが発表される可能性があります。

本来、展示会の出展の目的は、販路開拓やマーケティングではないでしょうか。実物を目の前にしながら、担当者とコミュニケーションを取ることで得られる情報は重要です。よって、個人的には「オンライン展示会はリアル展示会に取って代わるものではない」と思っています。

しかし、このような非常事態の中でも、IT をはじめ様々な技術を駆使し、ビジネスを停滞させない姿勢とそのための努力にこそ大きな意味があると感じます。

広州交易会公式サイト
www.cantonfair.org.cn/cn/index.aspx